



R069.1
T046
㊦

〇
複写

大正九年
東京教育博物館一覽

始



大正九年四月

東京教育博物館一覽

東京教育博物館

東京市本郷區湯島二丁目
電話小石川六〇四番

278-127



東京教育博物館一覽目次

◎本館の沿革	一
◎本館諸規則	七
東京教育博物館規則	七
東京教育博物館參觀規則	〇
圖書閱覽所規程	一
圖書閱覽規則	一
東京教育博物館出品者心得	三
東京教育博物館藏藏品館外貸出規程	四
東京教育博物館長職務規程	六
◎本館事業の概説	七
◎大正八年度に於ける本館の概況	〇
◎諸統計	五
大正八年度來觀人員圖書閱覽數統計表	五

作 寄 贈 本

9.12.17

目次

R
069.1
To.46



東京教育博物館全景



東京教育博物館內景

目次

大正八年度中館外貸出品員數表	二六
大正八年度中交附及寄贈物品員數表(其の一)(其の二)	二七
所藏品增減表	三一
◎本館職員	三三
◎本館建物	三四
◎附錄特別展覽會陳列目錄	三六

東京教育博物館一覽

◎本館の沿革

明治の初年、我が政府が物産局假役所を置き、大學南校出仕田中芳男をして物産を蒐集せしめたるを以て本館の濫觴とす。

同四年九月、更に文部省内に博物局を置き、田中芳男 同局掛に任す。尋いで大成殿を以て博物局觀覽場となし、前に蒐集したる物産局の物品を悉く同觀覽場に移す。

同五年三月、大成殿觀覽場を公開して公衆の觀覽を許す。之れを博物館公開の始めとす。同月 天皇陛下博物館に御臨幸あらせらる。

同六年三月、博物館に博物局、書籍館、小石川藥園と共に幸橋内元鹿兒島藩邸内太政官所管博覽會事務局に合す。

同八年二月、博物館及書籍館は博覽會事務局より分離して再び文部省の管轄となり同時に小石川藥園は其所屬となる。此時文部省五等出仕學務局長辻新次博物書籍兩館御用掛兼勤を命ぜらる。同月博物書籍兩館一箇月の經費を金壹千圓と定めらる。同月博物書籍兩館を大成殿に移し之れを以て假館と爲す。同月辻新次御用掛を免ぜられ、中督學昌山義成博物書籍兩館長兼務を命ぜらる。四月博物館を東

京博物館と改稱す。

同九年三月、東京博物館を東京書籍館より分離し、事務所を上野山内車坂上東四軒寺町に移す。四月館長島山義成米國に出張を命ぜられ、文部少丞内村良藏館長事務取扱を兼任す。十月館長島山義成米國よりの歸途船中に病死す。十二月東京開成學校五等教授矢田部良吉館長に任ぜらる。よりにて文部少丞内村良藏館長事務取扱を免ぜられ御用掛兼務を命ぜらる。

同十年一月、東京博物館を教育博物館と改稱す。之れを本館の創立とす。二月本館一箇年の經費を金壹萬圓と定めらる。同月文部一等屬手島精一本館御用掛を命ぜられ、外國語學校長内村良藏の兼務を免ぜらる。三月文部省より上野公園地内新設の建物及地所を交附せらる。同月手島精一本館長補に任ぜらる。四月小石川植物園を本館より分離して東京大學の所屬となす。八月來觀規則並に圖書閱覽所規則を制定す。同月上野に移轉後始めて本館を開き公衆の觀覽を許す。十月、天皇陛下皇太后宮皇后宮本館へ臨御陳列品及理化學教授用具等の使用を觀覽あらせらる。十一月館長補手島精一文部一等屬に轉じ本館長兼務を命ぜらる。

同十一年十一月、府縣の學校に於て、物理器械を購入せんと欲する場合には、本館其紹介の勞を執るべき旨を廣告す。

同十二年一月、館長矢田部良吉職を免ぜられ、箕作秋坪本館長に任ぜらる。同時に文部一等屬手島精

一依願本官を免ぜられ、更に本館長補に任ぜらる。本年度の經費は金壹萬四千四百貳拾四圓なり。

同十三年一月、別に規則を設けて、本館の列品及圖書中同種類の物又は類似品の重複するものに限り公立學校へ貸出すこととす。十月本年度の始めに着手せし本館書籍庫並に書籍閱覽所の建物落成せしを以てこれに移轉す。同時に書籍室と改稱し、且つ規則を改正して公衆の閱覽を許す。

同十四年三月、構内新築の陳列場に文部省、直轄學校及本館の出品を陳列し、上野公園内第二回勸業博覽館開設中特に公衆の觀覽を許す。四月本館所藏動物標本目錄植物標本目錄を刊行して需要者に頒つ。六月本館案内を印刷す。七月館長補手島精一館長に任ぜられ、前館長箕作秋坪本館事務囑託を命ぜらる。同月列品の陳列換を行ひ、外國品と區別せんがため、内國及本館の製作に係る教育品の爲め特に一室を設けて公衆の觀覽に便す。

同十六年二月、前年十月に起工せし所の本館陳列場一棟の建築落成す。

同十七年五月、本館長手島精一農商務省御用掛兼勤を命ぜられ、英國倫敦府に於て開設の博覽會へ事務官として派遣せらる。同月文部省御用掛山岡次郎本館長代理を命ぜらる。六月本館にて學術講義開催の件認可せらる。十一月其第一回を開く。本年度經費は參萬六千九百參拾貳圓なり。

同十八年五月、曩に英國倫敦府衛生博覽會事務官として派遣せられたる館長手島精一歸朝す。よりにて山岡次郎の館長代理を解かる。六月館長手島精一文部少書記官に任ぜられ、文部省御用掛箕作秋坪本

館長兼東京圖書館長に任ぜらる。同日文部少書記官手島精一本館勤務を命ぜらる。

同十九年三月、本館は文部省總務局の附屬となり、館長箕作秋坪非職を命ぜられ、文部少書記官手島精一本館並に東京圖書館主幹を命ぜらる。四月本館規則の改正認可せらる。改正の要點は、動植物及金石の標本を普通觀覽室と參考室との二部に分つこと、觀覽料を徴收すること、甲乙二種の優待券を發行すること、甲種優待券は一箇年間來觀するの效を有し、乙種優待券は一回限り參觀するを得るものにして、甲種券或は乙種券を携へて來觀する者には、普通觀覽室と參考室との別なく縱覽せしむること等なり。客年四月起工せし陳列場の増築成る。

同二十一年五月本館學術講義は明治十七年開講以來既に十二科目に亘り、普通學として必要のものは概ね之れを結了せしを以て本年度第一期限り之れを廢す。一月文部省本館列品に關し次の如く訓令す。

其館列品中博物標本は 普通教育に屬するもの、外は追て省除すべき目的を以て漸次淘汰すべく且自今其館列品は、一、幼兒教育用具、二、普通教育上學術技藝に關する教授用器械標品等、三、學校建物の雛形圖案及教場用具等、四、生徒の學業成績物の四部類とし可成精選調査を遂げ專ら普通教育上の裨益を謀るべし。

本館は右の訓令に基き、在來の列品中につきて漸次淘汰を行ふ。之れと同時に又文部省は本館陳列場の中新館と稱する一棟を東京美術學校に交附することに定めたるを以て、本館は之れを文部省に還附す。

す。

同二十二年三月、東京圖書館を本館より分離し、主幹手島精一非職を命ぜらる。同時に文部書記官青木保本館主幹兼務を命ぜらる。四月文部書記官青木保兼務を免ぜられ、文部書記官色川圀士本館主幹兼務を命ぜらる。七月本館は高等師範學校に附屬し其管理に歸す。よりにて文部省は本館所藏品中主として普通教育に關する物品を同校に引渡し、聖堂構内に一厦を新築して陳列場に充て、且つ當分大成殿左右の廊下をも使用せしむることとせり。同月高等師範學校教授千本福隆本館主事を命ぜらる。

同二十三年二月、本館來觀規則を制定す。四月始めて本館を開き公衆の觀覽を許す。

同二十七年十一月、高等師範學校教授千本福隆本館主事を免ぜられ、同校教授谷本富本館主事を命ぜらる。

同二十八年八月、本館來觀規則第五條を改正す。

同三十年四月、本館來觀規則第二條の但書に四月中は月曜日も開館することを追加す。

同三十一年三月、高等師範學校教授谷本富本館主事を免ぜられ、同校教授中川謙二郎本館主事を命ぜらる。十二月本館來觀規則を改正す。

同三十二年一月、改正來觀規則を實施す。是より觀覽料徴收のことを廢し、何人にも無料にて入場することを許し、且つ教育圖書閱覽所を大成殿左廊下に同書庫を大成殿内に設けて公衆の閱覽を許す。

四月本規則を制定す。六月本館一枚摺案内を印刷す。
 同三十三年六月、本館主事中山謙二郎依願高等師範學校教授並に本館主事を免ぜられ、高等師範學校教授朝夷六郎本館主事を命ぜらる。
 同三十四年四月、本館主事朝夷六郎福井縣師範學校長に任ぜられ、高等師範學校教授本莊太一郎本館主事を命ぜらる。
 同三十五年十二月、本館主事本莊太一郎休職を命ぜらる。
 同三十九年一月、東京高等師範學校教授棚橋源太郎本館主事を命ぜらる。
 同三十九年五月、圖書閱覽所を構内元附屬小學校單級教場に移す。同七月、列品の陳列換を行ひ、新に大成殿内に生徒成績品及教科書の類を陳列して特別室と稱す。
 同四十年七月、創めて本館一覽を印刷す。
 大正元年九月、本館に通俗教育館を附設し、同年十一月之れを公開す。
 同三年六月、本館は勅令第二百二十三號を以て廢止せられ同時に勅令第二百二十二號を以て文部省普通學務局に東京教育博物館を設置せらる。
 同三年六月、東京高等師範學校教授棚橋源太郎館長事務取扱を囑託せらる。
 同六年四月、在來の陳列館を舊單級教場跡に移築し附屬圖書館及事務所に充つ、同時に陳列館の改

築工事を起し、同年九月竣成十一月公開す。
 同 年五月、東京高等師範學校教授兼文部省督學官棚橋源太郎本館長を命ぜらる。
 同八年四月、附屬圖書館を大成殿廻廊に移し閱覽室跡を講演室に充て活動寫真映寫設備を爲し書庫跡を第二事務室に充つ。

◎本館諸規則

東京教育博物館規則

第一條 東京教育博物館ハ廣ク内外ノ教育品及教育圖書ヲ蒐集陳列シテ教育ノ普及改進ニ資スルヲ以テ目的トス

第二條 東京教育博物館ニ陳列スベキ物品ハ左ノ種類トス

一、學校建築

幼稚園學校建物ノ模型寫真及其内外各部ノ構造裝飾等ヲ示ス雛形圖面ノ類

二、校具

机、椅子、塗板、溫室器、身體検査器、帳簿、褒賞書又ハ其雛形圖畫ノ類

三、教具

- 恩物、教科書、掛圖、地圖、示教書、計數器、生理動物植物礦物地文天文地質地理歷史用標本器械及模型、物理化學器械藥品及材料、商品標本、農產物標本及農具、工業材料及製品標本、工具、手工用具、圖書用具、體操用具、樂器等或ハ其模型圖ノ類
- 四、學用品
 - 筆、墨、紙、繪具、石盤、筆記帳、實驗用具材料、被服攜帶品ノ類
- 五、生徒成
- 幼稚園、幼兒製作品、學校生徒諸學科ノ成績品
- 六、家庭教育及社會教育參考品
 - 玩具、育兒用品材料、育兒室ノ模型寫真及圖面、青年團體、各種保護教育等ノ施設狀況ニ關スル寫真記錄ノ類
- 七、學事統計規則類
 - 幼稚園學校規則一覽、教授訓練管理及教育衛生ニ關スル統計、其他總テ學事統計表ノ類、學資並ニ幼稚園學校會計ニ關スル諸表、學校教員幼稚園保姆並ニ學事關係職員ニ關スル諸表、其他凡テ學事統計表類及幼稚園學校規則類
- 八、通俗教育用品

- 通俗教育ニ關スル器械、標品、模型、繪畫寫真ノ類
- 第三條 東京教育博物館ハ何人ニテモ無料ニテ參觀ヲ許ス、東京教育博物館參觀規則ハ別ニ之レヲ定ム
- 第四條 東京教育博物館ニ圖書閱覽所ヲ設ク
- 第五條 東京教育博物館ノ陳列品及圖書ハ館外ニ出スコトヲ得ス
 - 但シ東京教育博物館長ニ於テ教育上館外ニ出スヲ必要ト認メタルトキハ此限ニアラス
- 第六條 東京教育博物館ノ陳列品ヲ試用センコトヲ願出ツル者アルトキハ差支ナキ者ニ限り之ヲ許ス
- 第七條 東京教育博物館ハ普通教育用品及圖書ニ就キ質問ヲ爲ス者アルトキ若シクハ同品ノ鑑定ヲ請フ者アルトキハ成ルヘク之ニ應スヘシ
- 第八條 東京教育博物館ハ官廳又ハ學校等ヨリ陳列品ノ模寫圖、雛形等ノ製作及送付ヲ請フトキハ之レニ應スルコトアルヘシ
 - 但シ本文ノ費用ハ請求者ノ支辨トス
- 第九條 東京教育博物館ハ官廳、學校、法人又ハ私人ヨリ教育用品又ハ教育圖書等ヲ出品セントスルモノアルトキハ時宜ニ依リ之レニ應スヘシ
- 第十條 東京教育博物館ハ通俗講演會ヲ開キテ無料聽講ヲ許ス

東京教育博物館參觀規則

- 第一條 本規則ニ從フ者ハ何人ニテモ無料ニテ參觀スルコトヲ得
- 第二條 本館ハ毎年十二月二十五日ヨリ一月五日マテ及毎週月曜日ノ外毎日開館ス
但シ四月中ノ月曜日及其他ノ月ノ日曜日ニシテ一日、十五日又ハ祝日、祭日ニ當ルトキハ特ニ開館ス
- 第三條 本館開閉ノ時限ハ左ノ如シ
三月ヨリ七月マテ午前八時ニ開キ午後四時ニ閉ツ
八月中ハ午前七時ニ開キ正午十二時ニ閉ツ
九月中ハ午前八時ニ開キ午後四時ニ閉ツ
十月ヨリ二月マテハ午前九時ニ開キ午後四時ニ閉ツ
- 第四條 參觀者入館スルトキハ靴又ハ上草履ヲ用フヘシ
- 第五條 館園ノ樹木ヲ折リ館内ニテ喫煙シ又ハ無作法ノ行アルヘカラス
- 第六條 精神病者又ハ醉狂者ト認メラルル者ハ入館ヲ許サス
- 第七條 十歳以下ノ兒童ニシテ保護者ノ同伴ナキモノハ入館スルコトヲ得ス

- 第八條 陳列品、陳列函、窓硝子等ヲ破損スル者アルトキハ相當ノ代價ヲ償ハシム
- 第九條 本規則本館ノ揭示又ハ館員ノ諭示ニ從ハサル者ハ直ニ退館セシム

圖書閱覽所規程

- 第一條 本所ハ通俗教育及普通教育ニ關スル内外國ノ圖書雜誌ヲ蒐集シ衆庶ノ閱覽參考ニ供スル所トス
但シ年齢十歳以下ノ兒童及傳染ノ虞アル疾病患者ハ入所ヲ許サス
- 第二條 本所ハ閱覽料ヲ徴收セス
- 第三條 本所ノ圖書ハ館外貸出ヲ爲サス
- 第四條 本所ノ圖書閱覽時間ハ本館開館中トス
但シ本文ニ拘ハラズ臨時閉所スルコトアルヘシ

圖書閱覽規則

- 第一條 本館ノ圖書ヲ閱覽セントスル者ハ閱覽所入口ニテ閱覽券ヲ受クヘシ
- 第二條 本館圖書ノ借覽ヲ請フ者ハ閱覽券ヲ係員ニ渡シ借覽證用紙ヲ受取り書名、冊數、函數、架號

番號並ニ自己ノ宿所職業氏名ヲ相當欄内ニ記載シタル上之レヲ係員ニ差出ス可シ

第三條 圖書ノ貸付ハ一人ニ付同時ニ一部三冊ヲ限リトシ特ニ參考ノ必要アルトキハ二部五冊ヲ限リトス

但シ辭書ハ此制限外トス

第四條 借覽ノ圖書ハ閱覽所外へ携へ出ツルヲ許サス

第五條 借覽中ノ圖書ハ鄭重ニ取扱フ可シ若シ故意又ハ過失ニ因リテ之レヲ紛失汚損スル如キコトアラハ借覽者ハ同一ノ圖書ヲ辨償シ若シクハ相當ノ賠償ヲ爲ス可シ

前項後段ノ義務未了ノ者ニ對シテハ本館圖書ノ貸付ヲ停止シ其情狀重キモノハ向後入所ヲ拒絕スルコトアルヘシ

第六條 借覽ノ圖書ハ閱了後直チニ返納スヘシ

第七條 圖書閱覽者ハ擅ニ閱覽所ニ在ル机椅子等ノ位置ヲ變更スヘカラス

第八條 閱覽所ニ在リテハ音讀談話ヲ爲シ又ハ帽子ヲ着スル等喧騒陋體ノ行爲アルヘカラス

第九條 所定ノ場所外ニ於テ飲食喫煙略睡等ヲ爲スヘカラス

第十條 本規則ヲ遵守セス又ハ係員ノ諭告ニ應セサルモノハ即時退場ヲ命スルコトアルヘシ

東京教育博物館出品者心得

第一條 官廳學校等ヨリ教育上參考ニ供スヘキ物品ヲ差出シ本館ニ陳列シテ公衆ニ觀覽セシメンコトヲ照會スル者アルトキハ時宜ニ由リテ承諾スヘシ又同趣意ヲ以テ人民ヨリ請願スルモノアルトキハ之レニ準シテ許可スルコトアルヘシ

但シ教育上特ニ必要アリト認ムルモノアルトキハ本館ヨリ其出品ヲ照會又ハ依頼スルコトアルヘシ

第二條 官廳學校等ヨリスル出品ノ照會ニハ出品目錄ヲ添フヘシ又人民ヨリ出品ヲ請願スルトキハ左式ノ願書ト共ニ出品目錄ヲ差出スヘシ

出品願

一、今般別紙目錄ノ物品御館へ陳列致シ廣ク公衆ニ相示シ度候ニ付テハ御館御規則類ハ固ヨリ堅ク相守リ可申候間御許可相成度此段出願候也

年 月 日

住 所

族 籍

東京教育博物館長何某殿

職業 姓名 印

第三條 出品運搬ノ費用ハ凡テ出品者ノ負擔トス又其陳列ノ爲メニ特ニ函架等ヲ調製スル必要アルトキハ出品者之レヲ負擔スヘシ

但シ第一條但書ノ場合ニ於テハ本館其費用ヲ負擔スルコトアルヘシ

第四條 出品者ニハ物品預リ證ヲ交付スヘシ

第五條 出品ノ保管及取扱ニハ本館ニ於テ成ルヘク注意スヘシト雖モ自然ノ消耗缺損ハ勿論火災其他ノ災難ニ由リテ生シタル紛失損害ハ本館其責ニ任セサルヘシ
第六條 出品者其出品ヲ更換修繕或ハ撤去セントスルトキハ豫メ許可ヲ受クヘシ

東京教育博物館藏品館外貸出規程

一、官廳學校又ハ教育會等ニテ當館所藏教育品借受希望ノ向ハ入用ノ期ニ先チテ成ルヘク早ク當館長ヘ申出ラレタシ

二、物品遞送ニ要スル荷造及運搬ノ費用ハ借受者ノ負擔トス

三、土地ノ遠隔セル爲メ借受品ノ選擇ニ不便ナル場合ニハ大體ノ希望ヲ具シテ選擇方ヲ本館ニ依頼ス

ルコトヲ得

但シ此場合ニハ運搬荷造費トシテ支出シ得ヘキ金額及陳列面積(壁面平面)ヲ豫メ申出テラレタシ

四、本館所藏外國諸學校生徒成績品及學校生活ノ狀況ヲ示セル寫真等ノ目錄ハ請求ニ應シテ送付スヘシ

五、(一)ノ場合ノ運搬荷造費ハ取扱商人ノ請求書ヲ添ヘ通知スヘキニ付キ直ニ商人ニ向ケテ送金セラレタシ

六、物品借受ノ場合ニハ現品ト引キ替ニ借用證ヲ差出サレタシ

但シ遠隔ノ地ニアリテハ借用證ヲ要セサル代リニ物品到着後直ニ當館ヨリ送付セル目錄ト引合セ相違ノ有無ヲ申出テラレタシ

七、物品陳列ノ際ハ其彙類及之カ陳列方ニ注意シ且ツ成ルヘク説明ヲ見易キ様ニセラレタシ

八、貸出品中ニハ容易ニ得難キモノ多數ナルカ故ニ汚損セサル様鄭重ニ取扱ハレタシ、若シ破損シタル時ハ修理ハ當館ニ於テ加フヘキニ付キ其費用ハ借受者ニ於テ負擔セラレタシ

九、物品ノ返戻ニ際シテハ特ニ左ノ諸點ニ注意セラレタシ
(イ)當方ヨリ送付セル目錄ニ準シテ物品ヲ彙類スルコト

- (ロ)成績品寫真等ニ附セル覆紙ヲ原形ノ如クスルコト
- (ハ)帙又ハ袋ニ物品ヲ入ルル際ニハ其數量ノ過大ニ失セサル様ニスルコト
- (ニ)荷造ヲ嚴密ニシ毀損ノ虞ナカラシムルコト
- 一〇、物品ハ約束ノ期日マテニ遲滞ナク返戻セラルヘシ若シ延滞ノ場合ニハ直ニ其旨ヲ申出テラレタ
シ

東京教育博物館長職務規程

- 一、文部大臣ノ指揮ヲ承ケ所屬職員ヲ監督スヘキコト
- 一、所屬職員ノ進退ニ關シ文部大臣ニ意見ヲ具申スルヲ得ルコト
- 一、左ノ事項ニ關シテ文部大臣ノ許可ヲ受クヘキコト
 - (イ)、臨時開館及閉館
 - (ロ)、例規ナキ事項ニ關シ館名ヲ以テ文書ヲ發スルコト
 - (ハ)、例規ナキ重大ナル事項ヲ處理スルコト
 - 一、左ノ事項ニ關シテハ便宜處分スルコトヲ得ルコト
 - (イ)、寄贈品ヲ受領スルコト但シ受領ノ上文部大臣ニ報告スヘシ

(ロ)、出品ノ許否

- (ハ)、通常ノ事項ニ關シ文書ノ往復ヲナスコト
- (ニ)、館務整理ノ爲メ細則ヲ設クルコト

◎本館事業の概説

本館事業の主なるものは本館規則に規定せる如く

- 一、教育品を蒐集陳列して公衆の觀覽使用に供すること
 - 二、教育圖書及通俗圖書を備へて公衆の閱覽に供すること
 - 三、教育參考品の館外貸出批評紹介
 - 四、特別展覽會及び通俗講演會の開催
- 等とす、以下各項につき之を概説せん。

一、陳列品の觀覽使用及説明 教育品を蒐集陳列して公衆の觀覽使用に供することは、本館事業中最重要なるものとす。本館所藏教育品並に陳列品の總數は大正八年三月三十一日の現在一萬一千八百三十點(圖書を除く)にして、博覽會展覽會等に際し出品者より其の殘品の寄贈を受けたるもの、本省より交付せられたるもの、本館が購入製作交換借入等によりて得たるもの等とす。

陳列品は主として自然科学及之れか應用に關する器械、標品、模型、繪畫及寫眞の類なり。此等の物品は天産物、主要商品製造順序、理化學器械及模型、人類土俗學、衛生等の分類に依りて陳列せり。而して主要商品は其の製造工程を示せる幻燈映畫を備付けて生徒團體等の爲めの説明用に供し、理化學器械模型、顯微鏡及實體鏡等は觀覽者の自由使用に任せ、卑近にして興味ある淡水産動物植物は之を飼育培養し、又動物剝製模品の陳列には配するに人工の土石、草花並に背景畫を以てして其生態を示せる等は本館の特色とす。

二、圖書の閲覽 附屬圖書館閱覽室は普通席、婦人席、兒童席等に分ち約五十人を收容し得べし。備附の圖書は從來の教育圖書及參考書に加ふるに、新に本省より貸附せられたる文部省認定の通俗圖書及帝國圖書館其他出版業者よりの寄贈圖書を以てし、公衆の閲覽に供しつゝあり。目下備附の圖書一萬二千四十五冊にして、外に雜誌新聞百五十九種あり。

三、陳列品の貸出批評紹介 本館は事業の一として各地に開催せらるゝ展覽會等に對し陳列品の館外貸出を行ふ。近時此種の會より借入を要求し來るもの頗る多く、その中、海外諸學校生徒成績品大部分を占め、其他歐米諸國に於ける學校生活の狀況を示せる寫眞、通俗教育の參考品教授用品等之に次ぐり。地理上歐米の先進國と遠く相距りて彼國教育の實際を視察する便宜を缺ける我が邦の如きにありては實物寫眞模型等に依りて彼國日進の教育施設狀況を紹介することは極めて必要なりとす。この

點に於て本館の任務は歐米の諸國に於ける教育博物館に比して特に一層の重きを覺ゆ。

教具製造業者、出版業者等より其製作品及出版物を寄贈し、又は特に之が批評鑑定を請求し來る者あるときは、本館は常に其要求を満たさんことに努めつゝあり。又教具の購入等に關して諸學校より或は本館の意見を問合せ、或は之が紹介を依頼し來る者あるときは、本館は常に之が問合せに答へ、或は紹介の勞を執りつゝあり。然れども本館員の少數なると、之に對する定期刊行物等の機關を有せざる爲め、此方面に向つて未だ本館の企圖を十分に實現すること能はざるは、本館の頗る遺憾とする所とす。

四、通俗講演會 本館は五十四坪の講演室に幻燈及活動寫眞映寫の設備をなし來觀團體の爲陳列品説明の用に供する外時々開催する特別展覽會に際し陳列品に關係ある通俗講演實演及活動寫眞會等を開催す。

五、將來の計畫 現在の陳列館は規模狹小にして常設館として必要なる自然科学參考品を收容し能はざるのみならず、且つ木造建築なるが故に一日も早く之を改築するの必要あり、本館改築の上は自然科学並に之が應用に關して民衆教育上參考となるべき物品を大體左の分類に依りて陳列し以て公衆の觀覽使用に供せんと欲す。

一、礦物、岩石、地質、鑛業、古生物、二、人類學及土俗學、三、動物及植物、四、物理、數學、天文、

氣象、五、化學及化學工業、電氣工業、六、土木建築運輸交通、七、農藝、林業、水産業、八、製作工業機械工業及機械、九、衛生

之と同時に貸出事業を擴張し、貸出品を従來の如く標品、模型、繪畫、寫真等に止むる事なく更に其範圍を擴めて幻燈及び活動寫真映畫及び其の映畫器械等に及して之が蒐集補充に力め以て近來激増せる各地の要求に應ぜんと欲す、公開講演は其の開催を一層頻繁にし幻燈活動寫真及び實驗の利用を可成多からしめんと欲す、特別展覽會は現在の木造陳列館全部を之に充當して従來の方針を持続し本館直營以外更に他官省團體等の經營に係かるものにも及さんと欲す。附屬圖書閱覽室は圖書の種類を本館陳列品に直接關係あるものに止め本館附屬圖書館としての價値を一層發揮せん事に努むべし。

◎大正八年度に於ける本館の概況

一、特別展覽會開催 本年度に於て特記すべきは二回の特別展覽會を開催したる事なり其概況左の如し

災害防止展覽會

イ、開催趣旨 近世自然科學の進歩は家庭社會到る處として其應用を見ざるなし殊に各種工業の勃

興と交通機關の異常なる發達を促して之れか爲め吾人が生活を簡便安易にし作業の能率を高め人類の福祉を増進したる洵に測り知る可からざるものあり。然るに一方之れに伴ふ不慮の事故災害は日を追うて益々其多きを加へ身命を脅威し財物を蕩盡する等吾人をして彌々不安の念を増し漸く文明の弊に堪へざらしめんとするの狀態にあり。然れども此の如きはもと過渡時代の現象と見做すべきものにして畢竟科學的研究應用の未だ満足すべき域に達せざると公衆の科學思想尙ほ幼稚にして責任觀念の薄弱なるの致す所たらずんばあらずされば近時頻發する各般の災害事故に關して速に其發現の事由を精査し之れか防止救済に對する施設の改善普及に力め以て吾人が生活の安全幸福を保證し無意義なる財物の亡失を防ぎ國運の發展に資する事は實に刻下の一大急務とす。これ特に災害防止に關する内外の參考品を蒐集陳列して公衆の觀覽に供し民衆の啓發社會の教育に貢獻せんとする所以なり。

ロ、會期 大正八年五月四日より同年七月十日に至る六十八日間

ハ、入場人員 總計拾八萬三千六百五人にして一日平均約二千七百人に及ぶ。右入場者中團體觀覽數は二百六拾二組にして四萬一千八百六十八人なり。

ニ、陳列品並出品者 出品者百十九箇所出品點數四千五百余點にして詳細は後掲陳列品目錄にあり。

ホ、本展覧會の影響 この展覧會が時勢の要求に適中せし事は入場者の頗る多數なりしことに見ても明なり右の外同展覧會の社會に與へし影響の主なるものを擧ぐれば左の如し。

當時全國多數の新聞及雜誌は展覧會の狀況を屢々詳細に報導し書肆東京培風館は特に展覧會の陳列品の内容を記述せる單行本「災難は避けられる」一冊を又東京南北社は「日常災害防止法」一冊を發行せり。又本展覧會閉會後其陳列品の一半は石川縣及山口縣に他の一半は福岡縣及石川縣へ貸與し右諸縣に於ては夫々展覧會を開催して地方人士の觀覽に供したり尙又本展覧會開期中東京市内有力者の主唱により本展覧會の趣旨宣傳のため六月十五日より同月二十一日迄一週間東京を初め全國各地に安全週間を舉行して災害防止に關し其の思想の鼓吹と實行の促進とに努め非常なる効果を擧げたるの結果新に中央災害防止協會の創設を見るに至れり。

生活改善展覧會

イ、開催趣旨 本邦の家庭社會に於ける生活法か頗る繁雜不合理を極め歐米の眞摯簡便なるに若かさる事は何人も認むる處にして之れか爲め徒に國民の能率を減退し國運の發展を阻碍する事實に測る可からず。

而して其の因て來たる處を察するに吾國に科學の素養行き亘らす經濟思想の乏しき事其一なり。因襲の久しき徒に虚禮虚飾に流るゝもの多き事其の二なり。

歐風生活法か未だ本邦固有のものとなし調和するに至らず徒に二重生活を營まざるを得ざるの多き事其の三なり。今や大戰の成果に顧み各國民競うて改造進取に銳意すべきの秋に際し國民の生活法を根本的に改善して無駄を省き能率を進め以て國運の發展に貢献する事は洵に刻下の一大急務とす。之れ本館か今回特に生活改善に關する參考品を蒐集陳列して民衆の啓發に資する所あらんとするに至りたる所以なり。

ロ、會期 大正八年十一月三十日より大正九年二月一日に至る五十八日間（この中二日間は招待日）

ハ、入場人員 總數十萬七千六百七十人にして此中國體數百二十六組一萬〇六百人なり。

ニ、陳列品並出品者 後掲陳列品目錄にあり。

ホ、本展覧會の影響 本展覧會も亦頗る時代の要求に適して非常なる好評を博せり其結果東京市内は勿論全國多數の新聞雜誌は競うて本展覧會陳列品の内容に關して屢々詳細なる報導を爲して世人の參考に資せり本展覧會閉會後陳列品の大部は名古屋市に開催の生活改造博覧會並大阪市に開催の同種博覧會に貸出し引き續き岡山縣其他の諸縣に巡廻貸出中なり尙本展覧會が世人の注意を喚起せるを機會とし東京市内官民有志者發起の下に生活改善同盟會なるもの設立せられ生活改善思想の宣傳普及並其の實行の促進に努力することゝなれり。尙本省に於ては本展覧會開會を機と

し生活改善講習會を開き全国各地に於ても盛に生活改善に關する講演會講習會の開催を見るに至れり。

二、通俗講演 活動寫真映寫實演及試食會其他前掲二回の特別展覽會に於て其の効果を一層徹底せしめんがため開期中之れに關聯して通俗講演會二十七回、活動寫真映寫二百五十四回、實演會二十八回、試食會八回を行ひたる外生活改善展覽會開期中館内に代用食品の試食所を試け又産業組合思想普及の爲め中央産業組合の廉賣所を設けて代用食品の普及と消費經濟思想の宣傳とに資せり。

三、來觀者 本年度中の開館日数は三百三十三日にして來觀數は後掲統計表の示す如く總計四十萬一千八百四十五人一日の平均數千二百七人にして此内團體觀覽者の數は五百三十二組五萬八千五百五十人を占む圖書閱覽者數は一萬八千六百七十四人なり之れを前年度來觀者總數十八萬餘人に比して急劇なる増加を示せり。

四、館外貸出 昨年度本省より交附の米國諸學校寫真及生徒成績品並在來の海外諸學校生徒成績品は引續き館外貸出の用に供しつゝあり此の外前記諸特別展覽會に陳列せし本館所藏の參考品は各地に開催の同種の展覽會に向つて貸出を爲せり。而して各地官廳學校教育會等の主催に係る各種展覽會の申込により貸出せるものは別項記載の如く四十六箇所三千二百十點なり。

五、行啓及御成 災害防止展覽會期中五月五日伏見宮博英王殿下、五月二十日山階宮茂麿王殿下、

五月二十八日北白川宮永久王殿下、久邇宮邦英王殿下、並朝香宮孚彦王殿下、六月一日閑院宮春仁王殿下、並寛子、華子兩女王殿下、六月三日伏見宮敦子女王殿下、同智子女王殿下、梨本宮規子女王殿下、六月八日高松宮宣仁王殿下の御成りあり。又六月十五日には 皇太子殿下行啓あらせられ、七月三日には思召により武屋權典侍以下三女官を特に御差遣相成りたり。

◎諸 統計

大正八年度來觀人員圖書閱覽數統計表

月 別	來 觀 人 員	同上中圖書閱覽人員	圖書閱覽部數
四 月	一三、一二九	一、三七八	一、九四一
五 月	七七、一九〇	一、七七七	二、四〇六
六 月	一二七、七五一	一、八一六	二、四六四
七 月	一四、七六六	一、二八七	一、九九七
八 月	三、四四三	五八〇	七七一
九 月	六、六四七	一、五三九	二、四〇一

十月	一二、六一三	一、九九六	三、三八七
十一月	八、三四六	一、六三一	二、四三四
十二月	五八、二六四	一、五三四	二、〇九一
一月	六一、九五〇	一、四一四	一、七二八
二月	八、四三八	一、四五二	一、七九二
三月	九、三〇八	二、二七一	二、八〇四
合計	四〇一、八四五	一八、六七四	二六、二一六
前年度合計	一八七、〇一八	三一、七〇六	八三、五一一

大正八年度中館外貸出物品員數表

品目	點數	貸出	先
内外國諸學校生徒成績品及寫眞	二、六九六	愛媛縣教育會外二十五ヶ所	
通俗教育參考品	二六三	石川縣教育會外九ヶ所	
歐洲戰亂寫眞及米國公告ビラ	二五一	廣島縣教育會外九ヶ所	

前年度合計	三、二一〇	四十六ヶ所
本年度合計	三、五七七	八十一ヶ所

大正八年度中交附及寄贈物品(圖書及參考品)員數表(其の一)

品目	數量	寄贈者
通俗圖書	五七	本省交附
參考圖書	三四	岡次郎外十ヶ所
通俗教育參考品	二一〇	本省交附並ボルネオ殖産株式會社外三十二ヶ所寄贈
合計	三〇一	

右通俗教育參考品内譯及寄贈者左の如し

ボルネオ島土俗參考品	一揃	ボルネオ殖産株式會社
釀造ニ關スル參考圖	六枚	大藏省釀造試験所
活動寫眞フィルム	四卷	日本活動寫眞株式會社

同	三卷	堤商會
避雷裝置	一揃	原安商會
船舶災害防止設備圖並模型	一揃	日本郵船株式會社
鑛山災害防止裝置模型	一揃	三井鑛山株式會社
川崎式鐵鋼見本	一揃	川崎工場
安全燈模型	一揃	江戶商會
自働火災報知機	二個	共益電機商會
船舶用救命用具	一揃	丹羽莊次郎
鑛山災害防止設備繪	一面	古河合名會社
盜難豫防裝置	一揃	吉岡直治郎
鑛見本	一個	神戸製鋼所
工場災害防止設備模型並繪畫	一揃	東京砲兵工廠
馬ニ關スル工藝品見本	十四種	清水兼太郎外十三ヶ所
養蜂場模型並養蜂生産品見本	一揃	岡田養蜂場
牛乳の利用參考品	一揃	東京牛乳株式會社

朝鮮土俗模型
マニラ麻原料

朝鮮總督府
上瀧貿易株式會社

大正八年度寄贈の新聞雜誌百七十九種にして即ち左の如し。
大正八年度中寄贈物品(新聞雜誌)員數表 (其の二)

亞細亞時論	神學之友道	教育時論	國學院雜誌
愛知教育	化學の工藝	教育	昆蟲世界
愛知縣商業陳列館報告	化學協會雜誌	教育	工業化學雜誌
青森縣教育會時報	監獄協會雜誌	教育	工業化學雜誌
醫學時報	關西時報	教育	國家醫學界雜誌
英語之青年	學士會月報	教育	國家學會雜誌
大分縣教育雜誌	活動寫真雜誌	教育	國家及ビ國家學
音樂界	家庭雜誌	教育	國家及ビ國家學
學校教育	旭光雜誌	教育	國家及ビ國家學
紙の世	川崎工場月報	教育	國家及ビ國家學
學校家庭通信雜誌	極東時報	教育	國家及ビ國家學
香川教育	氣象集誌	教育	國家及ビ國家學
鹿兒島教育	氣象集誌	教育	國家及ビ國家學

滋賀教育	心福研究	純年世	少年公	少年論	新女	順天醫學研究	市町村誌	實業の日報	實用新案	新斯界	十善寶	商工時報	殖民報	數學雜誌	水産界
水交社記事	染色時報	成醫會月報	世界公論	我界	大日本私立衛生會雜誌	大日本農會報	千葉學界	中地質學雜誌	女子學界	帝國農會	帝國農會	電氣學會雜誌	富山縣教育會報	特許局發明々細書	東京教育
東亞之光	東洋の哲學	ときのかえ	東洋學雜誌	動物學雜誌	東京化學會雜誌	東京醫事新報	東京經濟雜誌	統計集	東京石鹼商報	東京小間紙商報	東京文具新聞	東京玩具商報	圖書雜誌	圖書雜誌	日本及日本人
日本文具新報	日本園藝會雜誌	日本鑛業會雜誌	日曜教養園	列決彙報	博愛報	白十	婦人新報	福岡縣教育會々報	福岡縣教育會々報	婦人新報	文章世界	文具世界	福井商店文具時報	婦女新報	防長教育
法學協會雜誌	簿記世界	法學新報	法學新報	法學新報	法學新報	法學新報	法學新報	法學新報	法學新報	法學新報	法學新報	法學新報	法學新報	法學新報	法學新報

所藏物品增減表 (三月三十一日現在)

中央俱樂部	講談俱樂部	母之友	理學部	少年俱樂部	輔成會	三田評議	みづ文庫	村田	モリ	藥石
藥學雜誌	雄辯學	夢の世	婦女畫報	活動界	中央學報	教育叢書	幼年園	大科新報	六理	六理
ロマ字	都新	主婦之友	活動俱樂部	經濟タイムス	新事研究	東京日日新聞	東京日日新聞	東京日日新聞	萬朝日新聞	東洋新聞
やまと新聞	臺灣日日新聞	東都新聞	中央新聞	經濟新聞	鹿兒島新聞	新小學說	中時教養	幼時教養	圖畫研究	圖畫研究
法學協會雜誌	簿記世界	法學新報	法學新報	法學新報	法學新報	法學新報	法學新報	法學新報	法學新報	法學新報

◎附錄

災害防止展覽會出品目錄

◎天災及火災

- 荒川改修工事ノ模型地圖及寫真。水災圖表。六十五大川圖表各種。土木工事實況寫真等
- 白蟻被害標品寫真建築模型。防雪・防寒・管洩・凍害・火藥爆發其他ノ災害防止ニ關スル建築模型寫真及説明圖表
- 颱風・津浪・地震・雷災ニ關スル諸種ノ圖表。天氣豫報及警報信號ニ關スル模型圖表。器械類。
- 地震・津浪・噴火・浸水ニ關スル報告寫真圖表等。耐震家屋雛形。鎔岩及火山彈標品等
- 安政江戸ノ大地震及大火ニ關スル繪畫草紙雜記類
- 安政江戸及濃尾大地震ノ繪畫
- 林野火災ニ關スル寫真繪畫圖表。防腐木材及菌害ヲ受ケタル床下用材

出品者
 內務省 土木局
 陸軍省
 中央氣象臺
 震災豫防調查會
 維新史料編纂事務局
 東京教育博物館

- 見本。山火事・暴風・洪水ノ災害防止施設ニ關スル寫真及圖表。林業被害並ニ其防止施設ニ關スル寫真及圖表。災害防止ニ關スル印刷物等
- 漁船遭難豫防海錨ノ使用模型。漁船遭難一覽圖。風信號標模型。有害魚類等
- 主要作物病害虫標本及寫生圖。農作物煙害寫真。同蝨毒寫真其他
- 今昔ノ消防設備及用具ノ標本模型繪畫。火災ニ關スル統計圖表類
- 耐風耐震防火建築模型。同被害寫真
- 舊幕時代大名火事裝束其他
- 消防ニ關スル參考書籍
- 帝國劇場防火設備模型
- 自働唧筒
- 自蟻豫防木材防腐劑其他
- 田中式簡易火災警報裝置
- 火災盜難報知機
- エーノ式防火噴霧兩用唧筒。八年式消火唧筒
- 川崎式鐵網利用耐火耐震建築模型同上利用及防水土木工事模型其他
- 火災統計圖表類。災害寫真及解説印刷物。準耐火構造ニ關スル建築模型圖面並論文
- 流水式防火裝置。スプリンクラー其他

農商務省 山林局
 農商務省 水產局
 西ヶ原農事試驗場
 警視廳 消防部
 東京帝國大學建築學教室
 松浦伯爵家
 消防新聞社
 帝國劇場
 株式會社 森田製作所
 星製藥株式會社
 合資會社 高田商會
 東京報知株式會社
 東京唧筒株式會社
 川崎工場
 建築學會
 加藤盛壽

- 大野式防火シャッター
- 田島式鋼鐵製防火戸。同上窓障子取付模型。鋼鐵製戸棚等
- 昔ノ安全照明具
- 昔ノ安全點火及照明具
- 防水耐火建築材料
- 昔ノ消防用具及被服。火災水災ニ關スル繪畫寫真其他
- 昔ノ噴火火災飢饉ニ關スル繪畫
- 京都御所災上圖其他
- 天氣豫報及暴風警報信號用具
- 公共用消火器
- 火災報知機。溫度報知機
- 水難救濟ニ關スル用具繪畫及統計表
- 火災地震錦繪類
- 舊幕時代ノ火事裝束繪畫其他
- 天變地異事故類集畫帖
- 酒井左衛門尉及増山河内守火消方行列圖
- 避雷針及雷災ニ關スル參考品

◎交通機關ニ伴フ災害

大野 製作所
 巢鴨 甚右衛門
 淺田 吉太郎
 守谷 千吉會
 和田 眞道
 太田 眞洋
 森田 信吉
 田崎 忠恕
 共益電機商會
 帝國水難救濟會
 東京帝國大學圖書館
 帝室博物館
 村瀬 春雄
 高橋 健自
 原安商會

- 蒸汽機關車・電氣機關車・電車・客車・列車等ノ安全裝置。各種閉塞區間施設。線路並ニ建造物ニ對スル安全施設。保健及救護施設。外國ニ於ケル鐵道線路踏切ニ對スル道路上ノ設備。鐵道ニ關スル各種不慮ノ災害ノ標品等圖畫寫真
- 荷造ニ關スル寫真
- 航海ノ安危ヲ司ル圖書器械其他(水路部)。電氣顯溫器、潜水艇用救命衣・汽笛・安全傘・石炭庫用安全燈・自動閉鎖傘圖・ガハーナー圖
- 氣象電報分送系統圖表類・火災報知電話解說圖額面・汽船々員作業模型小包包裝標本・郵便車火災豫防・電信警報圖表・電信避雷機・電氣取扱圖水難救命器具模型及各種標本・燈臺及航路標識ニ關スル用具標品及繪畫
- 電車事故及遺留品ニ關スル統計並寫真等
- 戰時航空機ノ齋ラス災害防止ノパノラマ・航空機ヨリ生ズル災害防止ニ關スル落下傘等ノ繪畫
- 交通取締ニ關スル繪畫及統計圖表
- 自働車斷面模型、災害豫防繪畫
- 檢疫ノ順序ヲ示ス寫真
- 船内防火防鼠設備油繪・カムフラージュ油繪・船體陰蔽發煙器救命具其他
- 船體寫真及航海上ノ災害防止設備說明表

鐵道院
 大阪稅關
 海軍省
 遞信省
 東市電氣局
 帝國飛行協會
 上野警察署
 東京自働車學校
 橫濱檢疫所
 日本郵船株式會社
 大阪商船株式會社

- 京濱間電車危險信號裝置模型
- 鑄鎖製造及檢査順序寫真其他
- 自働車ガソリン供給裝置
- 救命毛布・艦船枕及其使用法繪畫
- 馬蹄形救命具・救命浮環・救命浮帶

◎工場及鑛山ニ於ケル災害

- 齒車ノ覆。木屑吸出・塵埃吸出・吸煙諸裝置ノ模型繪畫其他
- 火災防止ニ關スル用具。災害防止ニ關スル鐵工機械類・木工機械類・傳動機類・火藥火具類ノ圖及模型等
- 災害統計・災害豫防施設ノ圖表・參考書・鑛山用安全爆藥試驗方法圖解・危害豫防心得
- 獨國工場ニ於ケル災害防止設備寫真帖
- 安全燈及附屬器・鑛山用諸用品
- 鑛山用救命器・安全燈・救命作業及安全燈試驗寫真
- 鐘淵紡績工場ニ於ケル災害防止施設寫真。保護眼鏡・呼吸保護器・作業服等
- 炭鑛爆發ノ原因被害及其防止救濟施設ニ關スル標品・模型・寫真及實驗

京濱電氣鐵道株式會社
株式會社大阪製鑛所
安全自働車株式會社
丹羽莊治郎
富本富次郎

鐵道院

東京砲兵工廠

大阪砲兵工廠

農商務省商工局

合資會社江戶商會

筑豐石炭鑛業組合事務所

鐘淵紡績株式會社本店

三井鑛山株式會社

等

- 鑛山ニ於ケル災害防止設備參考說明書
- 工場災害防止ニ關スル書籍
- 災害防止揭示板(大垣工場)。寄宿舎寫真及作業服(東京出張所)
- 工場ニ於ケル防鼠設備標品
- 災害豫防寫真額面
- 米國ニ於ケル工場ノ安全第一ポスター
- 東京電氣株式會社ニ於ケル各種安全施設ノ實物・寫真及白晝幻燈
- 測風器・濕度計・自報寒暖計番人監督時計等
- 工場災害統計表及寫真。工場作業服見本及寫真。寄宿舎及職工住宅設計圖。各種印刷物等
- 人命救助器・人命蘇生器・空氣檢定器等
- 工業藥品及瓦斯中毒ノ顔面及手模型
- コットレル式電氣收塵裝置ノ實驗及ビ之ニ關スル寫真
- 工場災害豫防寫真

◎學校家庭軍隊等ニ關スル災害

- 防寒・喝病豫防・防虫・身體防護用被服見本・害虫標本及豫防用材料其他

古河合資會社
帝國圖書館
大日本紡績株式會社
東洋紡績株式會社
日本電氣株式會社
北浦重之
東京電氣株式會社
株式會社服部時計店
工業教育會
山武商會
山長會
金屬鑛業研究所
精舍

陸軍被服本廠

- 各種擔架・衛生用藥品及器具
- 濾水器沸水車其他
- 理化學實驗ニ伴フ災害豫防參考器具材料及圖表
- 登山用服裝及携帶品。露營用具其他
- 學校及家庭ニ於ケル傷害・火災・盜難等ノ防止施設及心得
- 聾啞ノ原因及血族結婚ノ害ヲ示ス統計圖表
- 失明ノ原因並ニ豫防。殘視保存器具及用法圖解等
- 火災原因種別圖及統計表
- 火災盜難豫防心得
- 理髮用消毒器具其他理髮衛生參考品
- 非常避難階段設備寫真
- 災害防止ニ關シ少年團ノ活動ヲ示ス寫真及參考品
- 盜難豫防家屋模型。盜難被害ニ對スル犯行手口調(警視廳調)
- 火災避難用繩梯子及其使用寫真。衛生手洗器。安全衛生哺乳器
- 運動場ノ災害豫防參考品
- 學校備付救急箱
- 屋內水泳場ノ設備繪畫並ニ安全運動器具
- 初生兒ノ標準被服(四季各一揃)
- 調理・裁縫・防寒等ノ安全用品。錠類及盜難除器具各種

陸軍衛生材料廠
陸軍糧秣本廠
東京高等師範學校
附屬中學校
同附屬中學校
山岳部
實踐女學校
東京聾啞學校
東京盲學校
山脇高等女學校
本所區役所
明治理髮學校
湯島尋常小學校
東京少年團
跡見女學校
青山女學校
麻中尋常小學校
東京市教育課
基督教青年會體育部
宇津野病院
家庭經濟學會

- 電氣取扱上ノ危險ヲ示ス實驗及模型
- 患者用寢臺及寢具病院用模範戶等
- 輕卒ナル結婚ト恐ルベキ遺傳ノ災害
- 吉岡式盜難豫防機實驗裝置
- 盜難豫防秘密錠取付重簞筭
- 印影檢査機
- 盜難防止國松式安全錠付小口金庫
- 佐野式理想屏錠
- 耳鼻咽喉氣管食通竅入異物標品及寫真等
- 育兒及家庭衛生ノ危害防止參考品
- 盜難除錠前。火災豫防煙突其他
- 庭園樹木ノ災害防止
- 變災避難及應急用具
- 家庭救急心得其他
- 安全玩具
- 安全インキ
- 托兒所寫真
- 胃腸及食道內竄入異物
- 骨傷X線寫真

東京電燈株式會社
グオーリス合名會社
杉田直樹
吉岡直二
橫井祐助
梅津武雄
高木朝吉
佐野直次郎
順天堂病院耳鼻咽喉科
榎田十次郎
座銀建築用品店
植物業愛護會
三宅秀郎
河合三郎
三越兒童用品研究部
篠崎商店
三崎會館
東京帝國大學佐藤外科
同整形外科

- 飲酒ノ災害ニ關スル繪畫
- 保險ニ關スル統計圖表
- 貯金及保險ニ關スル繪畫
- 米國安全第一ポスター。安全第一靈藥諷刺畫其他

生活改善展覽會出品目錄

◎飲食物

- 主要農産物の消費量及價格統計圖表、馬鈴薯飯獎勵印刷物
- 貧民窟に於ける貧民營養統計圖表
- 動物營養試驗成績圖表
- 米麥の調製と營養分との關係參考品
- 米の營養比較表及見本、農産物カロリー表
- 米及人造米標品各種、經濟的節米保健食膳見本
- 米糠の有効成分標品圖表
- 馬鈴薯米、馬鈴薯料理見本及調味品
- 大正米(高粱)製造工程標品

品目

日本禁酒同盟會
生命保險會社協會
遞信省
安全第一協會

出品者
農商務省農務局
醫學博士 永井 潜
農學博士 鈴木梅太郎
農商務省農事試驗場
農學博士 澤村 眞
糧食研究會
三共株式會社
馬鈴薯利用獎勵會
大正米製造合名會社

- 大正米(玉蜀黍)製造工程標品其他
- 小原式加工玄米
- 水産代用品と其營養價值圖表
- 玄米食半搗米食に關する標品圖表
- 水産食品見本、魚類應用調味品等
- デヨミ標品
- 寺内醫學博士考案改良醬油
- 粉末雞卵製造工程標品並料理模型
- 粉末かつを標品
- 混合代用食一週間分献立
- 米糧問題懸賞募集當選併用食並代用食料理模型
- 節米代用混合食料理見本
- パン見本各種、製麵包に關する圖表模型等
- 節米代用食料理見本、各種パン見本等
- 節米料理見本及模型、兎肉・牛豚内臓・鰯・鯡等代用食品料理見本及模型一品料理見本
- 安價滋養日常食膳模型
- 經濟的保健食膳模型
- 安價滋養井式食膳見本

芳賀コンスタチ株式會社
豐年屋
農商務省水産局
主 食 改 良 會
水 産 講 習 所
菊 池 商 會
富士藥品工業株式會社
酒 井 商 會
東京糧食加工組合
實 踐 女 學 校
仁丹 森 下 博
日本女子實務學校
陸軍糧秣本廠
東京府立第三高等女學校
日本女子大學校
東京府立第一高等女學校
奈良女子高等師範學校
東京割烹女學校

○食物好嫌調查參考品

◎被服

- 內外國人備附婦人衣類の比較圖表、改良帶、老人用掛蒲團等
- 米國女學生の服裝一揃、日米女學生の服裝比較表其他
- 日英主婦備附衣服比較圖表
- 日米主婦備附衣服比較圖表
- 三角反物制度の改善
- 女史案 麻絲紡績被服材料及製品
- 改良服、妊婦服、産衣等
- 改良女學生服及婦人服
- 改良婦人常用服並女學生服、改良足袋及藁蒲團等
- 下田、本野 兩女史案改良婦人訪問服及平常服等
- 改良婦人仕事着、室内服及訪問服等
- 改良婦人筒袖服及旅行用シャツ等
- 山脇高等女學校案 生徒制服
- 改良兒童服ガラ並カフスの自宅洗濯法等
- 土屋醫學博士夫人案 改良女兒服其他

愛知縣立第一高等女學校

- 和洋裁縫女學校
- 基督教女子青年會
- 東京女子大學
- 青山女學院
- 東京家事講習會
- 東洋麻絲紡績株式會社
- 櫻井くにと子
- 戸板裁縫學校
- 奈良女子高等師範學校
- 松坂屋いとら呉服店製作
- 實踐女學校出品
- 加藤ささ子
- 三越吳服店洋服部
- 東郷昌武
- 高島屋吳服店

○改良兒童服

- 改良兒童服
- 改良女學生服
- 尾崎芳經濟服及改良服各種
- 太郎氏案改良婦人服
- 改良婦人服
- 吉田改良女兒服、運動服及婦人下着
- 女史案 古着利用女學生洋服並改良下着、改良靴等
- 被服研究品、被服の害虫及菌類、被服保存藥品等
- 紙糸及其の製品
- 紙布織物、パピロン織物
- 改良女兒用靴

◎住居

- 鐵道從業員の改良住宅其他の寫真
- ボギ一車式簡易改良住宅模型
- 改良住宅模型及圖面
- 小住宅規格模型及圖面
- 改良小住宅及改良庭園模型等

- 東京府青山師範學校
- 附屬小學
- 和歌山縣女子師範學校
- 附屬小學
- 成女高等女學校
- 白木屋吳服店
- 日本女子實務學校
- 小野商行
- 高木鐸子
- 陸軍被服本廠
- 日本夏帽株式會社
- 清水久次郎
- 鳥取縣倉吉實科高等女學校

- 鐵道學院
- 實踐女學校
- 住宅改良會
- 東京帝國大學工學部
- 建築學教室
- 三輪田高等女學校

- 育兒室模型
- 接客中心の改良住宅模型
- 主婦執務室設備
- 改良臺所並洗濯場の繪畫寫真
- 三角女史考案田園聯合住宅設計圖
- 壁紙の色と室の明るさとの關係參考品
- 中流の共同住宅圖
- 勞働者會館設計圖
- 中流の郊外改良住宅圖
- 大正便所見本(實物大)
- 田園都市理想圖
- 田園都市に關する繪畫圖表
- 田園都市に關する圖表
- 市營住宅設計圖並寫真
- 郊外居住に關する調査圖表
- 南滿洲に於ける市街並住宅設計圖
- 新時代の建築材料見本
- 流し兼用洗濯器
- 改良臺所及風呂場設備並瓦斯器具見本

東京府立第一高等女學校
 東京府立第二高等女學校
 日本女子大學
 原田次郎
 東京家事講習會
 日本電氣協會
 宇田田
 坂本龍之助
 川崎工場
 城口下水處理研究所
 東京高等工業學校
 福田重義
 大阪市役所
 東京女子大學
 南滿洲鐵道株式會社
 島田藤吉
 基督教女子青年會
 東京瓦斯株式會社

- 新案野菜乾燥器
- 獨逸中流家庭の臺所用具一式
- 改良炊事用具
- 改良家具見本各種
- 炊爨具及燃料節約調查圖表並參考品
- 馬鈴薯米製作品
- 野村式馬鈴薯米製作器
- 家庭パン燒釜
- 座敷用椅子、新案衣紋竿其他改良家庭用具
- 改良鍋、釜、てんび等
- 改良チャブ臺及膳
- 薪炭節約竈、改良天井板等
- 西洋家具掃除用具
- ソウファベッド見本及繪畫
- 家庭用改良電熱器
- 富三式寶釜蓋

◎儀禮、社交、公德

○壹千圓の嫁入仕度

陸軍糧秣本廠
 東京衛生試驗所
 糧食研究所
 東京府立工藝學校
 東京府立第一高等女學校
 丸眞發明社
 帝國食料品研究會
 佐野擴平
 大阪府立梅田高等女學校
 東京女子高等師範學校
 家事理科室
 錦秋實科高等女學校
 農商務省山林局
 增田順太郎
 石川彦四郎
 守谷商會電熱部
 小山富三
 三越吳服店

- 嘉悦、指原 壹千圓及五百圓の嫁入仕度
- 兩女史案
- 東郷昌 三百五拾圓の嫁入仕度
- 武氏案
- 入澤醫學博士 改良婚禮式服
- 同夫人案
- 長持利用の衣服棚
- 佛式結婚參考品
- 結婚改善に關する繪畫
- 地方處女會事業の參考品
- 山縣高等女學校並
- グラボ1夫人調査 内外花嫁の持參品比較表
- 各國結婚費比較圖表
- 贈答接待訪問の改善に關する調査並諷刺畫
- 紅葉山人筆長座無用の菓子鉢
- 飯田旗 惡風打破諷刺畫
- 郎氏案
- 電車道徳諷刺畫
- 公德に關する諷刺畫

◎家庭内職

- 家庭内職參考品
- 中流向き内職參考品及諸外國内職比較表

松坂屋いとう呉服店
松屋 吳服店
高島屋 吳服店
長谷川 簞笥店
築地本願寺
帝國八千代俱樂部
處女會中央部
本館
本館
東京府立第二高等女學校
殿谷季雄
本館
青山女學院
本館
家庭製作品獎勵會
中央家庭職業研究會

- 下流向き内職參考品及内職に關する調査表
- 米一升を得らるゝ内職の參考品
- 家庭副業の職業別一覽表
- 内職業者の收入増加圖表

◎雜

- 主婦一日の生活法圖解
- 二重生活諷刺畫
- 三角女中の八時間労働案圖表
- 女史案
- 女中を省く生活法圖解及農村生活諷刺畫
- 派出婦作業の寫眞及繪畫
- 改良事務用具各種
- 輪轉式謄寫器
- 睡眠と作業能率との關係圖表
- 煙草工場執務振寫眞
- 日用品購買上量目注意實例、正味量の不足せる容器並商品等
- 本邦標準生活費一覽表
- 戰時及戰後の物價調査圖表
- 貯金獎勵繪畫及郵便電信聯合國際年賀狀參考品等

三笠小學校
愛知縣立第一高等女學校
啓正社
坂本龍之助
ミセスボールズ
本館
東京家事講習會
錦秋實科高等女學校
婦人共同派出會
伊東屋
堀井騰寫堂
文學博士 松本亦太郎
南滿洲鐵道株式會社
東京府權度課
青山女學院
東京商業會議所
遞信省

- 東京市内野菜供給徑路圖等
- 共同購入利益表
- 公設市場寫真及統計圖
- 社會救済及教化に關する繪畫圖表等
- 道路改良に關する繪畫、公設市場及職業紹介所等に關する寫真圖表
- 公設市場其他社會事業に關する寫真圖表等
- 公設市場圖表、節米宣傳ビラ等
- 公設浴湯の寫真及圖面
- 托兒所及産院寫真
- 神戸市公設市場寫真等
- 家庭用活動寫真映寫機
- 内外國家家庭娛樂比較參考品、家庭文庫
- 家庭文庫
- 少年不良讀物
- 學校衛生に關する繪畫
- 衛生思想缺乏の實例繪畫
- 讀書姿勢の善惡及書物取扱方圖解
- 生活改善につき眼の着け處圖表
- 公設市場と銀行との連絡繪畫

子爵土岐章
 産業組合中央會東京支會
 東京日用品市場協會
 東京府社會課
 東京市役所
 大阪市役所
 愛知縣廳
 神奈川縣廳
 本所贊育會
 神戸市役所
 ミカド商會
 東京女子大學
 奈良女子高等師範學校
 京都市教育會
 本省普通學務局第五課
 奈良女子高等師範學校
 南葵文庫
 成蹊女學校
 報德銀行

大正九年十一月七日印刷
 大正九年十一月十日發行

(非賣品)

東京教育博物館

東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷者 島 連 太郎

東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷所 三 秀 舍

MUSEUM SPECIAL EXHIBITIONS.

Two special exhibitions were held in this fiscal year. One was the Exhibition for Accident Prevention, and the other for Life Betterment. Both were remarkable successes. The visitors to the former numbered 183,605 (2,700 average a day), and 107,670 (1,856 average a day) for the latter.

LECTURES, DEMONSTRATIONS AND MOTION PICTURES.

In this fiscal year, 27 lectures, 28 demonstrations and 254 motion picture shows were given to the public in connection with the two special exhibitions above mentioned.

STAFF OF THE MUSEUM.

TAKAICHIRO AKASHI, Director of the Bureau of General School Affairs, the Department of Education.

GENTARO TANAHASHI, Director of the Museum and School Inspector of the Department of Education.

NUMBER OF VISITORS

ARTICLES SENT

The number of articles sent to the Museum for exhibition in this fiscal year was 1,234. The number of articles received from the public was 1,087. The number of articles received from the Government was 1,456. The number of articles received from the private sector was 2,345.

Table with multiple columns and rows of text, likely a detailed report or list. The text is very faint and difficult to read, but appears to contain numerical data and descriptive text.

CONTENTS.

General View of the Museum.	Page
Interior View of Part of the Museum.	1
History of the Museum	7
Regulations Referring to the Museum	7
The General Regulation	10
Rules for Visitors to the Museum	11
Rules Referring to the Reading-Room	11
Rules for the Readers	13
Rules for the Exhibitors	14
Rules for the Loan of Articles outside the Museum ...	16
The Duties of the Director of the Museum.....	17
Summary of the Work of the Museum.....	20
Important Work done During the Last Year	25
Various Statistics of the Museum	25
The Number of Visitors	26
Articles Lent	27
Articles Contributed by the Public.....	31
Articles Entered and Discarded	33
The Staff of the Museum.....	34
The Buildings of the Museum	

EXTRACTS FROM THE HISTORY OF THE MUSEUM.

This Museum was founded in Uyeno Park in 1877 by the Educational Department of the Imperial Government, and then consisted of a reading-room and several exhibition-rooms.

In 1884, a series of public scientific lectures was started.

In 1888, all the exhibits which had no connection with common education were withdrawn.

In 1888, the Tōkyō Library, which had hitherto formed part of the Institute was separated, and the Museum was at the same time removed to its present site (Yushima, Hongo Ward) and attached to the Tōkyō Higher Normal School.

In 1899, a reading-room was added to the museum.

In 1912, the work of popular education was committed to the charge of this Museum by the Imperial Department of Education and institution exhibiting the materials of natural science was added for that purpose.

In 1914, this museum was detached from the Tōkyō Higher Normal School, and came under the control of the Educational Department of the Imperial Government.

In 1917, a new building was completed and all the exhibits with new ones added were transferred there. The old building was converted into a lecture hall and office-rooms.

PROPERTY OF THE MUSEUM.

Specimens, instruments, articles of furniture etc, belonging to both the Museum and the Institution of Popular Education total 11, 830.

Maps, charts, and books total 12,045.

NUMBER OF VISITORS.

The number of visitors this year was 401,845.

ARTICLES LENT.

The number of articles lent outside the Museum this year was 3,210 most of them being specimens of work by European and American scholars, photographs illustrating school life in those countries and articles connected with popular education, pictures of the European war etc. They were lent to 46 provincial educational associations and schools, to be put on exhibition in those places.

SHORT ACCOUNT
OF
THE TOKYO EDUCATIONAL MUSEUM
FOR
THE YEAR ENDING MARCH 31, 1920

THE TOKYO EDUCATIONAL MUSEUM
2 CHOME YUSHIMA, HONGO-KU,
TOKYO, JAPAN.

Telephone No. 604 Koishikawa.

278
127

終

